

仙台YMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.350.2023



仙台青年

SENDAI YMCA NEWS



2023年5月25日発行

公益財団法人仙台YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 加藤雄一
編集人 / 松島晃子



ポップクラブは
おかげさまで25年目を迎えました！
今年も元気に運営していきます！

「小学校に上がってもYMCAで子どもをみてるプログラムがあると嬉しいなあ」というYMCAに通っていた保護者の一言からアフタースクール「ポップクラブ」は1998年に誕生しました。初年度は23名でスタートし、一番多い時期で100名あまりの子どもたちが通っていました。現在は約70名の子どもたちが通っています。

自由な雰囲気の中で異年齢の子どもたちによる自主的な遊び集団を形成することを目指し、様々な世代の人たちと交流することで豊かな感性を育むことや自立の精神を養うことを目的とし、保護者と一緒に子育てパートナーとして共に考えながら親と子それぞれの成長を促していくことをモットーに、今日まで運営してまいりました。

昨年度から、15年前にポップクラブに通っていたメンバーがポップクラブの職員として勤務しています。職員にとっても嬉しい限りです。メンバーだった時とは違う雰囲気と、懐かしさを出しながら子どもたちと接していると、「昔はポップってどうだったの？」「どんなメンバーだったの？」と質問攻めにあって少し困っていましたが、昔の様子を伝えることで子どもたちの想像力が働き、「今はこうだけど、昔はそうなんだー」と楽しそうに、時には真剣に聞く姿に嬉しさを覚えました。



この25年で世の中は大きく進歩し、特に電子機器の発達が目まぐるしいスピードで私たちの日常生活になくてはならない物になっています。それは子どもたちの環境にも言えることで、学校での学習にパソコンも導入され、少しずつ読み書きが少なくなってきました。何でもボタン一つで調べられる世の中で、子どもたちの考える力が失われないように、YMCAでは常に考える言葉がけを意識して子どもたちに接しています。まさに昔の話をする際の子ども達の興味を示すきらきらした眼はそれを物語っているように感じます。これからも子どもたち・保護者に寄り添った運営を心がけて、30年、40年と続けていけるように邁進してまいります。これからもYMCAポップクラブをどうぞよろしくお祈りします。

アフタースクール ポップクラブ責任者：尾木 善宣

Column

YMCAバザー実行委員会委員長 佐々木 絹子



2020年から 2022年の間、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から立町会館での開催を中止し、各法人、各 YMCA施設でバザーの代替えプログラムでミニバザーや小規模イベントを実施し、YMCAバザーとしての働きを行ってきました。私たちワイズメンズクラブも職員の皆さんも、早く YMCAらしい関わりの中で子どもたちの支援に繋がる働きをしたいと感じておりました。今年 5月 8日から新型コロナウイルスがインフルエンザと同様の第5類に分類され、様々な制限が解除されました。多くの方々が集まるイベントや、飲食時のマスク着用などに制限がからず、地域にも賑わいが戻ってきました。

例年行われていたバザーを立町会館で実施できるよう、現在実行委員会が中心となり、計画を進めております。バザー当日は物品販売の他、食べ物コーナーやお土産コーナー、子どもの遊び場など多くの皆様楽しんでいただけるプログラム内容を準備しております。このバザーの益金は、仙台YMCAの活動を通して、子どもたちの健全育成費(児童福祉施設の子どもたちを季節のキャンプや水泳プログラムに招待等)や障がいのある子どもたちの活動を支援する活動費(季節のキャンプや宿泊プログラム等)、ボランティアの指導者育成費に用いられます。

微力ではございますが、ワイズメンズクラブ・メネットの皆さん、ボランティアの皆さん、職員の皆さんと共働し、笑顔溢れる安心安全なバザーを実現してまいります。多くの会員の皆様のご協力をお願いいたします。

NEW

連載

加藤 総主事の
『みつかるつながる。
よくなっていく。』

第1回

「放っておけない」気持ち



先日、2019年12月にアフガニスタンで凶弾に倒れた中村哲医師の35年間の現地活動のドキュメント映画を観る機会がありました。干ばつや飢餓、戦争や病気に苦しむ人々のために医師の仕事だけでなく、自らパワーショベルを操作し、用水路の建設にも力を注ぎ、干ばつでなにもない荒野を一面の緑に変え、多くの人々の命を救った方です。中村医師は、アフガニスタンでの活動を継続している理由を質問された際に「放っておけないから」と語りました。私は、この言葉を聞いたとき、大阪の釜ヶ崎で生活者の支援をしている神父の言葉が重なりました。その神父は、「人間にとって大切なのは、よい人になることでも、立派な大人になることでもなく、人の痛みを放っておけない心を持つこと」と語っていました。「放っておけない」気持ちは相手のことをいつも気にして、心配しているからこそ起こる気持ちです。目の前にいる人や目の前で起こっている出来事の中に、見ないでしまっていることがないように、心を込めた関わりを大切にしていきたいと思いました。

仙台 YMCA 人形劇サークルの活動を紹介します！ 川畑 まりなさん

仙台YMCA人形劇サークルでは保護者が主体となり、子どもたちに向けて人形劇の発表をしています。その歴史は古く、もう20年以上の活動になり、歴代の保護者の方が作ってくださった手作りの人形や小道具を大切に使いながら、練習に励んでいます。昨今共働きのご家族も増え、学校の役員や下の子のお世話などでお忙しい方も多いため、無理のない範囲で楽しく活動していくことを大切にしています。

本番当日は子どもたちのワクワクがこちらにも伝わってくるほど、楽しい日になります。学年によって反応は様々で、怖がってしまう子、お人形が動くたびに笑う子、一緒に盛り上がってくれる子...みんな大きな声で反応してくれるので、こちらも楽しい気持ちになります。子どもたちの大好きな曲が流れると、自然と一緒に大合唱。頑張っ練習してきて本当によかったと感動する一幕です。



ここ数年はコロナ禍で活動は縮小となりながらも、無理のない範囲で活動を続けてまいりました。感染対策もしながらの練習や公演は大変なこともありましたが、続けてこられたのは、保護者一人ひとりが、活動のために自分は何ができるかと積極性をもって取り組んでくれるからだと感じます。困ったことがあってもお互いに支えあう環境は、子育てをしていて本当に助けられます。公演当日では卒園生の保護者の方が駆けつけてくださり、歴史やつながりを感じます。これからも保護者のコミュニティの場、子どもたちの笑顔の場として、長く続けていければと思います。

YMCAと私

西山児童館

伊沢優季さん（児童クラブ1年生 伊沢英士くんのお母様）

小学校に入学し、息子が週何日か児童館に通うようになりました。赤ちゃんの時からお世話になっている児童館。館長のまっさんリーダーをはじめ、知っているリーダーがいる事がとても心強く、楽しく児童館通いを始める事ができました。お陰様で、私も安心して仕事をする事が出来ています。息子が児童館に遊びに行くようになったのは、1歳頃。乳幼児のプログラムや、ボランティアさんの読み聞かせ、リトミックなど講師の方とのイベント。みんなで大きな制作をしたり、クッキングをしたり、家で2人きりだとなかなか出来ない事も体験できて、母の私も毎回楽しみでした。息子が特に好きだったのは、毎月の「1・2のたいそうキッズ」！リーダーたちのまねをしながら走ったり鉄棒にぶら下がったり、跳び箱に登ったり。お友達と沢山身体を動かして遊ぶ事をとても楽しみにしていました。おかげで今も運動が大好きです。幼稚園に入園したりコロナ禍だった事もあり、しばらく児童館から離れていましたが、また始まった息子の児童館ライフ。これからYMCAならではのイベントに参加する事がとても楽しみです。



仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわがを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を拡げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

第51回 仙台YMCA国際・地域協力募金 報告

第51回仙台YMCA国際・地域協力募金では、目標金額1,800,000円を掲げ募金運動を行いました。2022年度も新型コロナウイルス感染症拡大の為、街頭募金を実施することはできませんでしたが、十勝じゃがいも・かぼちゃ・たまねぎ販売、物品販売、クリスマス献金、YMCA各施設に在籍する方々やYMCAのプログラムに参加している方々へ募金の呼びかけを行い、1,621,321円の募金が寄せられました。多くの方々にご協力いただいたことに改めて感謝申し上げます。また、昨年度も実施できなかったYMCAバザー委員の方々が中心になって行った、各施設でのミニバザーの収益金245,184円、同じく実施できなかったチャリティーランからも、活動を続けるために行ったグッズ販売の収益金から81,262円を国際・地域協力募金に拠出していただき、合わせて1,947,764円となりました。今回皆様からお寄せいただいた募金は、日本YMCA同盟国際協力募金、リーダー育成、タイのパヤオセンター支援、フリックパーククラブ、コミュニティースクール、放課後等デイサービスみらい・きぼうの活動支援として拠出させていただきます。

委員会としての働きを一人でも多くの方にご理解いただき、国際・地域協力募金で集められた募金が、支援を必要とされている方々への一助となれば幸いです。

2023年度もさらに活動の範囲を広げて、より多くの方々に募金のご協力を呼び掛けてまいりますので、今後も引き続き、国際・地域協力募金へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

第51回仙台YMCA国際・地域協力募金委員会 委員長/加藤 研



仙台YMCAバザー

お待たせしました！『仙台YMCAバザー』を開催します！

バザーの益金は仙台YMCAの活動を通して、児童福祉施設の子どもたちの支援や障がいのある子どもたちの活動支援、また、YMCAの活動を支えるボランティアの支援等に用いられます。皆さまのご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。ご来場お待ちしております！！

ご家庭で眠っている物品はありませんか？

ぜひ、寄贈ください！バザーで販売させていただきます。

【物品寄贈方法】物品を立町会館にお持ちください。ご持参いただくことが難しい場合は、YMCAこども園（西中田・南大野田・加茂）、YMCA長町保育園、児童館（旭ヶ丘・富沢・西山）、児童クラブ（日吉台・富ヶ丘）までお持ちください。また、ご連絡をいただければ直接取りに伺うことも可能です。お気軽にお問い合わせください。※未使用品に限ります

★お問い合わせ★

公益財団法人 仙台YMCAバザー実行委員会事務局
仙台市青葉区立町9-7
TEL 022-222-7533 FAX 022-222-2952
担当：糟谷・増山

2023年
6月11日(日)
10:00-14:00
仙台YMCA立町会館

一般会員・サポート会員を 随時募集中です

ぜひ会員として、
仙台YMCAの活動をお支えください
お問い合わせ: 本部事務局

TEL: 022-222-7634
FAX: 022-222-2952

維持会費 (4月15日～5月20日)

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

維持会員A

油谷 重雄 小林 正一 門脇 利勝

(敬称略)

